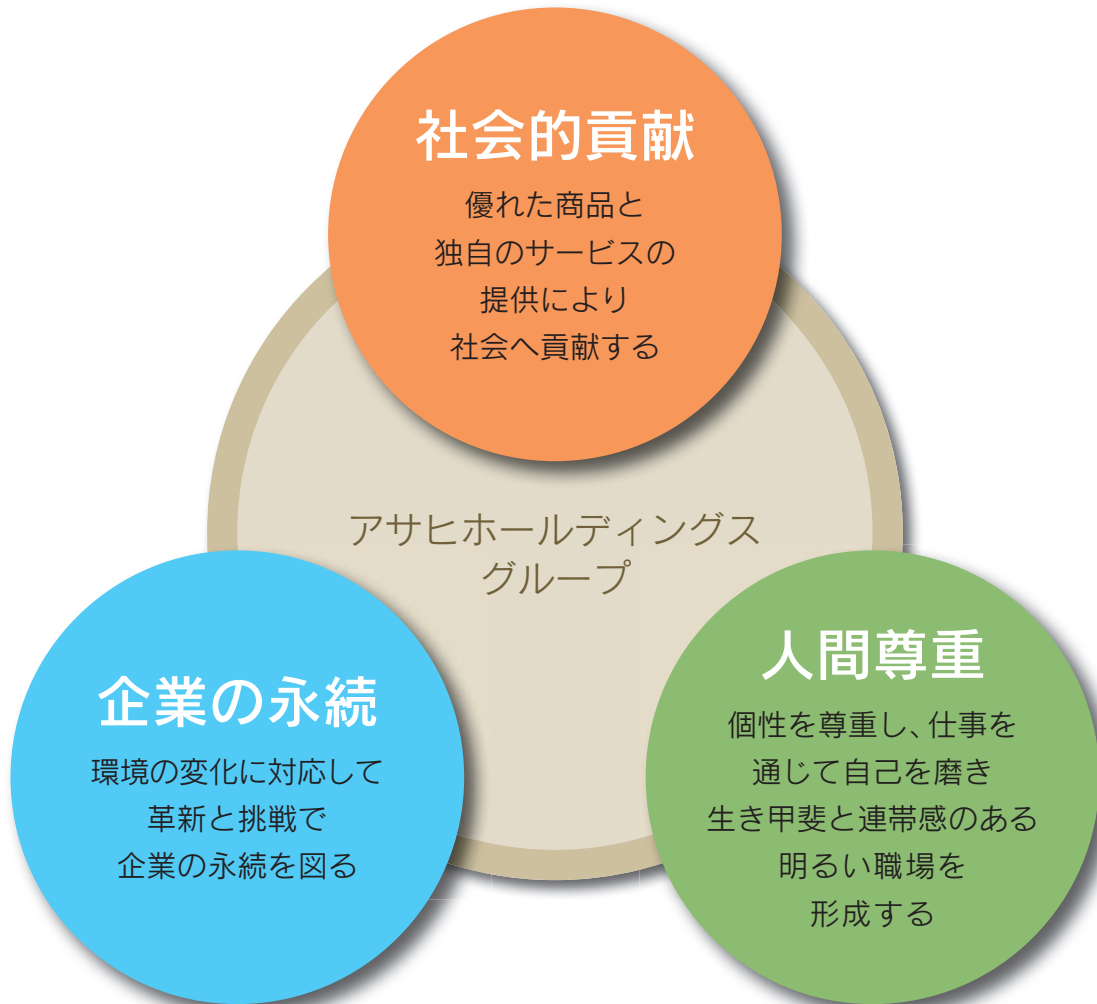


## Company Overview

アサヒホールディングスグループは、  
お客様や社会からの要請に対して  
誠実にお応えし、  
良識ある企業集団としての  
責任を果たしてまいります。

## 経営理念



## グループスローガン

「V11～変革と創造を進めよう～」

アサヒホールディングス設立の初年度からの3年間で「新たな創業期」と位置付けて、グループ全員が一丸となり、次代に向けた「変革と創造」に取り組んでいます。



## TOP MESSAGE

事業発展を通して  
持続可能な社会の実現に貢献します

### 環境の世紀

当社は1952年の創業以来、「資源の有効利用」と「地球環境の保全」をテーマとした事業活動を通して、広く社会に貢献することを目指してまいりました。今日、人類が直面しているさまざまな環境問題は、地球の有限性をあらためて強く認識させるものであり、グループの事業の中核をなす各種のリサイクルや廃棄物処理のサービスが果たす役割の重要性は、以前にも増して大きくなっていると自覚しております。私たちは持続可能な社会の実現という新たな時代の使命をしっかりと銘記し、グループの事業活動が社会の永続に役立つよう今後とも取り組みを続けてまいります。

### 経済危機下の「第二の創業」

2009年4月に持株会社制に移行し、「アサヒホールディングスグループ」として新たなスタートを切りました。世界的な経済危機の中での厳しい船出となりましたが、深刻な時局を「第二の創業期」ととらえ直し、全グループを挙げて新たなビジネスチャンスの獲得や経費の削減に取り組んでおります。世界経済の先行きは依然として不透明感を拭えませんが、このような時期こそ事業基盤を強化し、将来の飛躍のための礎を築くことが最も重要な経営課題と認識しております。昨年策定いたしました第5次中期経営計画につきましても、新たに見直し作業を行い、より高い目標に向かって努力してまいります。

そして将来に向けた成長戦略の一環として、貴金属リサイクル事業分野においては、兵庫県尼崎市と韓国・ソウル市郊外にそれぞれ新工場の建設を進めております。また本年3月、中国広東省において現地有力企業と合併契約を

締結し、中国全土において貴金属リサイクル事業を展開していくことを決定いたしました。環境保全事業分野においては、昨年12月にジャパンウエイト株式会社の子会社として「JW ガラスリサイクル株式会社」を発足させました。引き続きM&Aやアライアンスを推進することで、廃棄物処理に係るワンストップソリューション体制を拡充してまいります。今後とも、健全かつ安定的な収益性と財務基盤を堅持しながら、成長分野や海外市場を視野に入れた積極的な投資を行い、持続的な事業の成長と企業価値の向上を実現したいと考えております。

### ステークホルダー間の均衡ある 利益の実現に向けて

グループ全体の経営は、さまざまなステークホルダーの皆様との関係によって成り立っていますが、いかなるステークホルダー関係においても、当社が経営理念の一つに掲げております「企業の永続」を確保することがとりわけ重要であり、そのために当社は法令や倫理綱領の遵守の徹底を図ることはもとより、内部統制の強化に向けて全社横断的なモニタリングを行い、潜在的なリスクの早期発見に努めております。また、経営の機動性と透明性の向上を絶えず追求し、時代の変化に即したマネジメント体制の確立を図っております。これからも日々の着実な取り組みを通して、社会の一員として常に信頼される企業グループでありたいと考えております。

2010年5月

代表取締役社長 寺山満春

# コーポレート・ガバナンス

持株会社制への移行を契機に、より強固なグループ・ガバナンスの構築とリスクマネジメントの推進を目指します。

## コーポレート・ガバナンスに関する考え方

持株会社であるアサヒホールディングス株式会社は、グループのガバナンスの中心にあつて、グループ全体の戦略機能を担い、リスク管理と対外的な説明責任を負うスリムな組織体として業務を遂行しています。

事業会社であるアサヒプリテック株式会社とジャパン

ウェイスト株式会社は、分野ごとの特性に応じた迅速な意思決定と最適な業務執行体制により事業を推進し、競争力の強化と収益力の拡大を図っています。各社がその責務を果たすことにより、すべてのステークホルダーに対する企業価値の最大化に努めています。

## グループ・ガバナンス体制



## 内部統制対応システムの整備

取締役会規則、監査役会規則、執行役員規程、内部監査規程、内部統制規程などの制定、金融商品取引法に対応したマネジメント体制の確立などにより、グループ内部統制の整備を図っています。

また、2009年6月よりグループ内に社外取締役を設置し、2010年3月より持株会社に独立役員を選任しています。今後も、外部の視点を取り入れ、コーポレート・ガバナンスの一層の充実に取り組みます。

## リスクマネジメントについて

アサヒホールディングス自身が、グループ全体の「リスクマネジメント機能」を保有しています。可能な限りリスクを事前に予知し、未然防止を図るとともに、危機に発展した場合の経済的・社会的損失を最小限とするために、事業活動上のリスク把握、評価および対策を実施しています。こうしたリスクマネジメントの適切な運用により社会的責任を果たし、ステークホルダーからの信頼が得られるよう努めています。

## コンプライアンスについて

廃棄物関連の事業は行政の許認可に基づいており、常に高い遵法意識と行動が求められています。コンプライアンスの規程やマニュアルを整備し、また、全社員に対し社員教育の場や社員相互のコミュニケーションの場で遵法意識を浸透させ徹底させる取り組みを行っています。



個人情報保護教育

## 社員の判断基準 「グループ倫理綱領」

役員および社員の意思決定や行動に際して、法令遵守の精神と倫理観を持って行動することを求めています。そのために、日常業務場面に即した具体的な内容を例示し、役員および社員は倫理綱領の理解と実践に努めています。

## 法令倫理・公益に 反する事項についての 社内・社外相談窓口を設置

社内で違法または不当な行為などの問題を早期に発見し解決するために、社外の法律事務所を窓口とする「アサヒホットライン（内部通報制度）」を設置するほか、社内相談窓口を設け匿名での申告も受け付けています。通報案件に関しては、申告者や被申告者のプライバシー保護について配慮し、調査や是正措置を講じる体制を整備しています。同相談窓口の設置については、社内イントラネットのトップ画面に表示し、全社員に周知しています。



# グループ概要

貴金属リサイクルと環境保全事業を中心に事業活動を展開し、地球環境の保全に貢献しています。

## アサヒホールディングス株式会社

### ●会社概要

創業：1952年7月

設立：2009年4月

資本金：4,480百万円

代表者：寺山 満春

本社：〒650-0001

兵庫県神戸市中央区加納町4-4-17

ニッセイ三宮ビル16F

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-7-12

サピアタワー 11F

社員数(連結)：1,192名(2010年4月現在)

URL <http://www.asahiholdings.com>

### 役員一覧：

代表取締役社長 寺山 満春

取締役 武内 義勝

取締役 東浦 知哉

取締役 櫻井 勉

取締役 田辺 幸夫

社外取締役 森井 章二

社外監査役 有海 澈明

社外監査役 小林 貞五

社外監査役 徳嶺 和彦

(2010年6月17日現在)

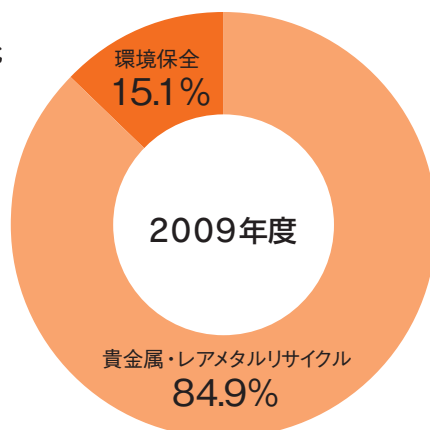


神戸本社



東京本社

### ●事業セグメント別 グループ売上高構成比



## アサヒプリテック株式会社

### ●会社概要

事業内容：貴金属・レアメタルリサイクルおよび  
産業廃棄物処理

代表者：寺山 満春

本社：〒650-0001

兵庫県神戸市中央区加納町4-4-17

ニッセイ三宮ビル16F

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-7-12

サピアタワー 11F

社員数：910名

URL <http://www.asahipretec.com>

### <国内拠点>

研究所：テクノセンター

工場：埼玉、尼崎、神戸、愛媛、福岡、北九州、北九州ひびき

リサイクルセンター：埼玉、千葉、尼崎

営業所：札幌、青森、仙台、新潟、北関東、関東、横浜、

甲府、静岡、名古屋、北陸、神戸、岡山、広島、四国、

福岡、北九州、鹿児島、沖縄

### <海外拠点>

Asahi G&S Sdn. Bhd. (マレーシア)

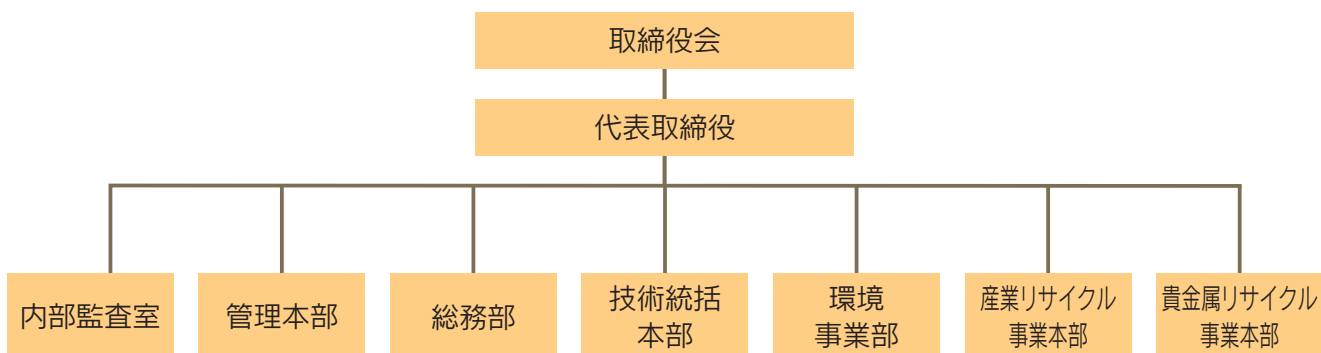
上海朝日浦力環境科技有限公司

朝日励福(江門)資源综合利用有限公司

韓国アサヒプリテック株式会社

(2010年4月現在)

### ●組織図(アサヒプリテック株式会社)



## ジャパンウェイスト株式会社

### ●会社概要

事業内容：環境保全

(産業廃棄物処理およびその他の環境保全事業)

代表者：武内 義勝

本社：〒650-0001

兵庫県神戸市中央区加納町4-4-17

ニッセイ三宮ビル16F

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-7-12

サピアタワー 11F

社員数：266名

URL <http://www.japanwaste.co.jp>

### <関係会社>

日本ケミテック株式会社 (本社：埼玉県川口市)

JW ガラスリサイクル株式会社 (本社：東京都江東区)

富士炉材株式会社 (本社：東京都大田区)

株式会社三商 (本社：横浜市)

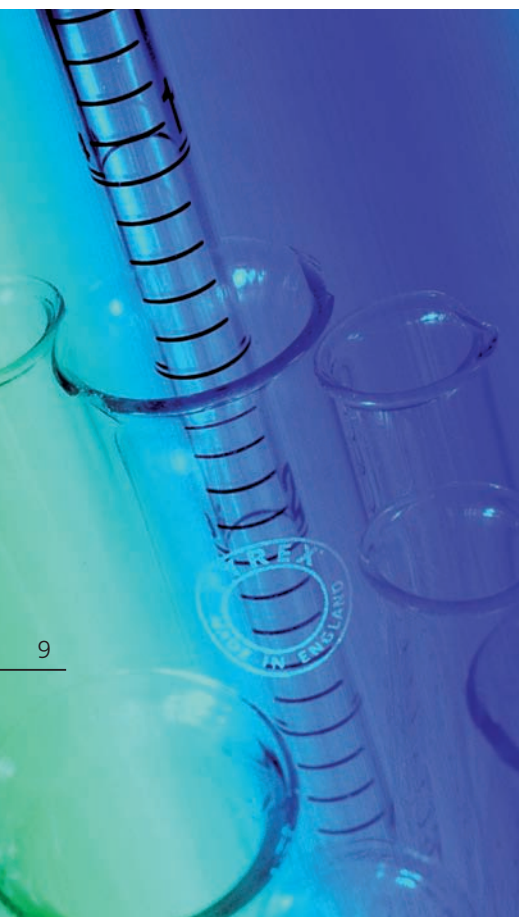
株式会社塩入建材 (本社：長野県長野市)

株式会社イヨテック (本社：兵庫県明石市)

株式会社太陽化学 (本社：鹿児島県鹿児島市)

(2010年4月現在)

# 貴金属リサイクル



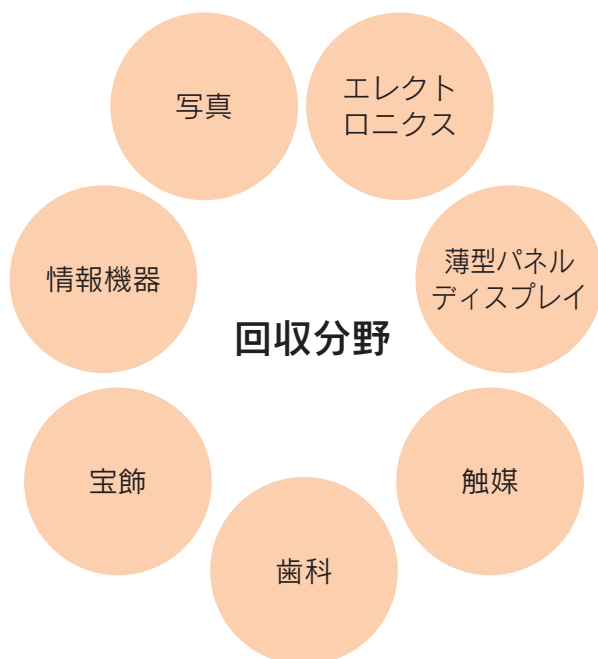
限りある資源を有効活用し、  
地球と社会のために  
貢献しています。

アサヒブリテック株式会社を核として、私たちはさまざまな分野から発生する貴金属・レアメタル含有スクラップを回収し、リサイクルしています。金・銀・パラジウム・プラチナ・インジウムなど現代のモノづくりに欠かせない貴金属・レアメタル製品として再生することにより、資源の有効活用と産業の発展に貢献しています。



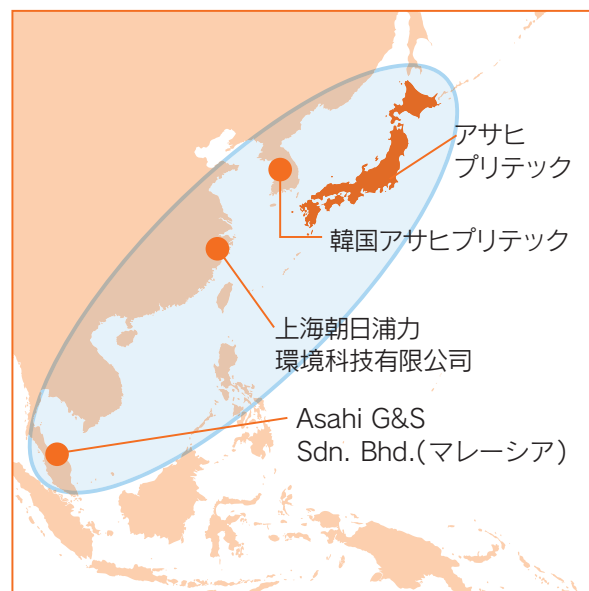
## 貴金属原材料の回収分野と地域は多岐にわたります。

独自の技術・ノウハウと国内外の営業ネットワークを活かし、エレクトロニクス・薄型パネルディスプレイ・触媒・歯科・宝飾・情報機器・写真などのさまざまな産業分野



から貴金属・レアメタル資源を効率よく回収しリサイクルしています。

### ●営業ネットワーク



## 確かな品質が国内外で高い評価を受けています。

アサヒプリテックは(社)日本金地金流通協会の正会員で、金・銀・プラチナ・パラジウムの地金は、東京工業品取引所の受渡供用品としてブランド認定を受けています。さらに、金・銀はLBMA (The London Bullion

Market Association)、プラチナ・パラジウムはLPPM (The London Platinum and Palladium Market) のグッド・デリバリー・バーとして認定を受けており、確かな品質が世界のマーケットで高く評価されています。

### TOPICS 1

#### 韓国に新工場を建設

半導体・薄型パネル・電子部品等の分野で世界的なメーカーが集積する韓国に、2010年度中に新たに現地工場を建設します。海外でのエレクトロニクス事業を一層拡大するとともに、歯科分野において国内で蓄積したノウハウをもとに海外展開を行います。



韓国工場完成予想図

### TOPICS 2

#### 中国現地有力企業との合併契約を締結

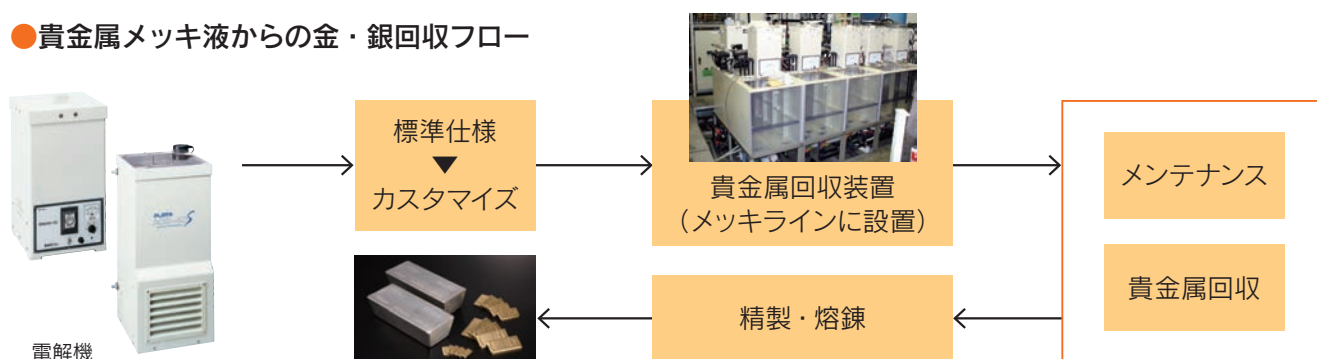
アサヒプリテックが100%出資する上海朝日浦力環境科技有限公司と中国励福国際集団傘下の励福実業(江門)貴金属有限公司は、中国国内において貴金属リサイクル事業を展開する合併会社「朝日励福(江門)資源综合利用有限公司」を広東省江門市に設立する旨の契約を締結しました。

## エレクトロニクス関連

電子材料分野では、パソコン、携帯電話などに使用される電子部品、プリント基板などの製造工程での、貴金属・レアメタルの回収やリサイクルのニーズに卓越した技術で対応しています。表面処理分野ではメッキ液に含まれる貴金属を中心としたリサイクル事業に取り組んできました。独自開発の電解式貴金属回収装置「ZIPANG」・

「PLATA」をはじめ、ユーザーの製造ラインに対応した多様な回収システムを提案しています。金、銀、パラジウムなどの貴金属回収に加え、レアメタルなどの再資源化や水処理再使用など環境に配慮した回収技術を合わせて提供します。

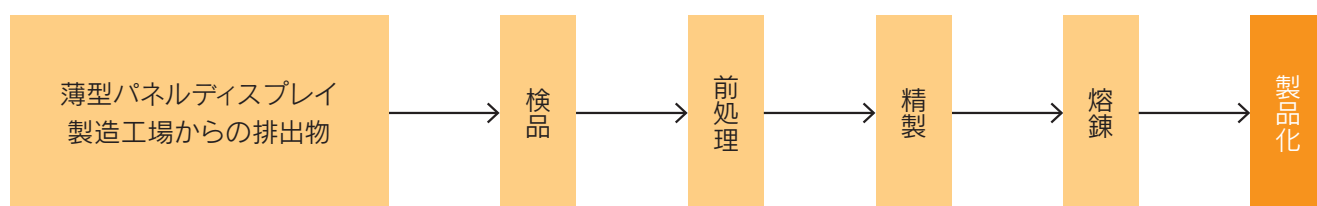
### ● 貴金属メッキ液からの金・銀回収フロー



## 薄型パネルディスプレイ関連

液晶テレビ、プラズマテレビなどに使用している薄型パネルディスプレイの分野では、各々インジウム、銀などが使用されています。中期的に薄型パネルディスプレイ市場は高い成長率を維持するといわれており、貴金属・レア

メタルのリサイクルがますます重要なテーマとなっています。当社は独自の高度な技術により、これら貴金属・レアメタルのリサイクルに取り組んでいます。



## 触媒関連

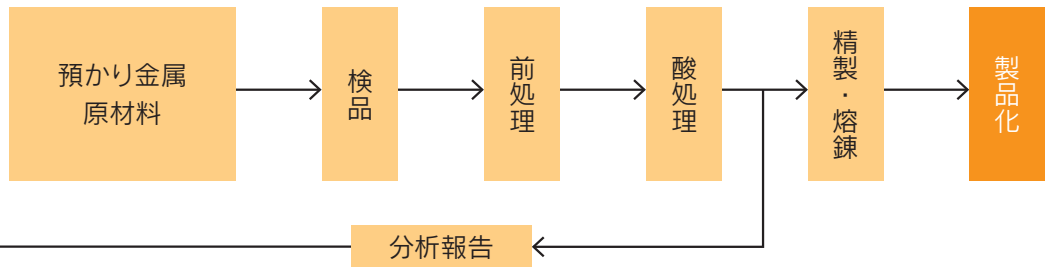
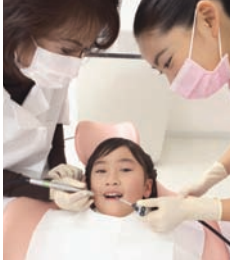
触媒分野では、大気汚染防止法、自動車分野におけるNOx・PM法など、排ガスに対する環境規制に従い、自動車触媒として貴金属が使用されています。当社は独自の技術ノウハウにより、自動車触媒、化学触媒などからの貴金属リサイクルに取り組んでいます。



自動車触媒

## 歯科関連

歯科医院や歯科技工所から排出される撤去冠・鑄造くずなどは貴重な貴金属資源です。当社独自の管理システムにより、工程ごとに二重三重のクロスチェックを行い、分析納期の短縮、分析数値の精度アップを実現します。



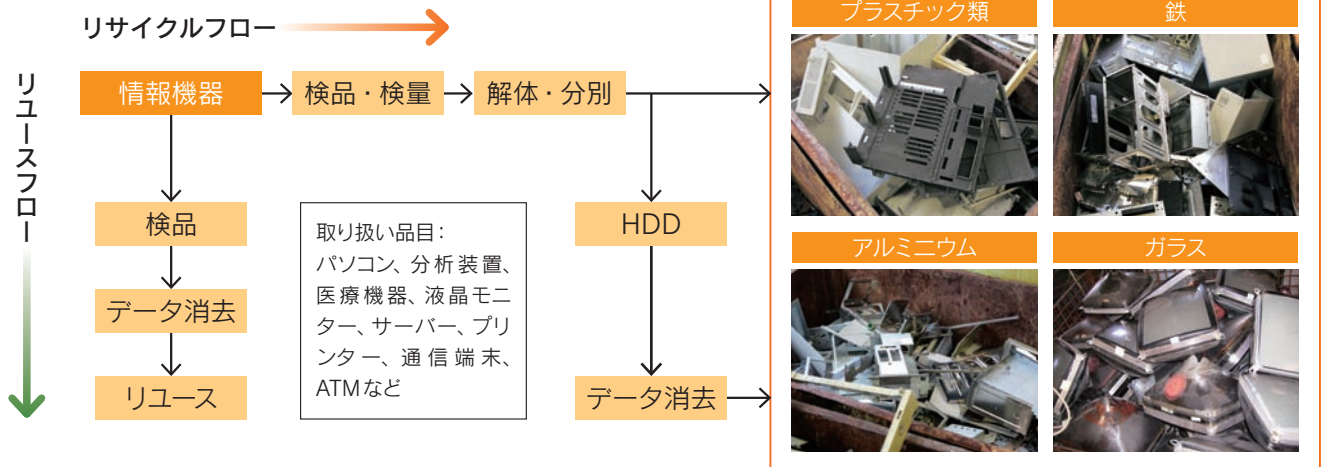
## 宝飾関連

宝飾品メーカーや加工所から発生するバフ粉、電解研磨液、削粉などから、徹底した個別管理と高度な分析・貴金属精製技術により高回収率を実現しています。また、宝飾品製造団体の「貴金属スクラップの回収・分析」において業務委託を受けており、当社の長年の実績に対してお取引先の皆様から厚い信頼をいただいております。

## 情報機器関連

全国のオフィス・工場・データセンターなどからパソコンをはじめとする情報機器などを回収し、徹底した素材分別を行うことにより、使用素材を再資源化し、環境負荷の低減を目指しています。HDD（ハードディスクドライ

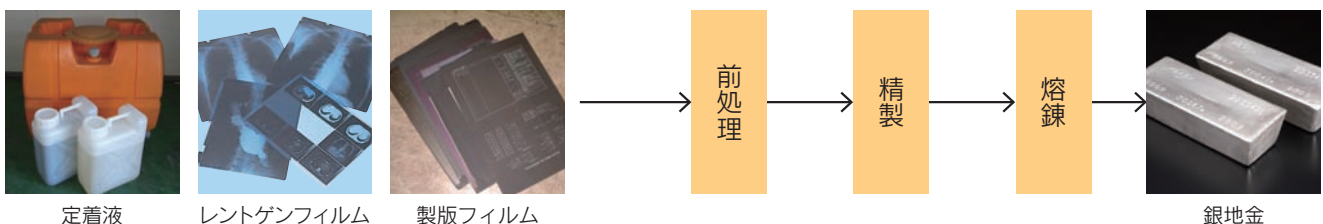
ブ）のデータを完全消去するなど、企業情報・個人情報の漏洩を防止し、情報セキュリティに責任を持って取り組んでいます。



## 写真関連

写真現像所、医療機関、印刷製版所などから排出される写真廃液、レントゲンフィルム、製版フィルムなどを回収し、銀のリサイクルと無害化処理を行っています。また、ミニラボから排出されるフィルムケース、パトローネ、

薬品ボトルは、圧縮・破砕処理後に素材原料として再利用するゼロエミッション・マテリアルリサイクルを実現しています。

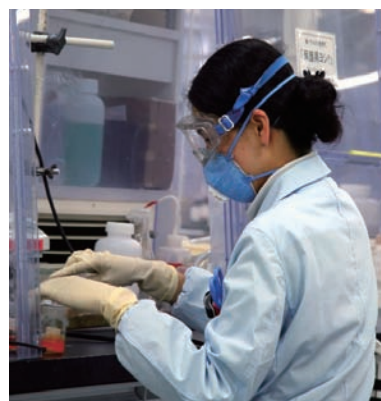


# RESEARCH & DEVELOPMENT

## 1. 研究開発

常にニーズを先取りし、蓄積された要素技術の応用と新技術の開発を通じて、新製品、新事業の創生に努めています。

- ① 貴金属・レアメタルの分離・精製・分析技術
- ② 貴金属成形加工技術
- ③ 電気分解応用技術
- ④ 環境保全・再資源化技術



## 2. 分析

当社グループ分析機能の中核として、最新分析機器と高度な分析技術で多岐にわたる企業活動を支援しています。また、お客様、お取引先の信頼を確実に保持し、高める役割を担っています。

- ① 新規分析技術の開発
- ② 各工場・営業所分析グループの技術指導
- ③ 貴金属製品や歯科用合金の純度分析
- ④ 工場排水などの環境分析
- ⑤ 環境計量証明事業



高周波誘導結合プラズマ質量分析計 (ICP-MS)

## 3. 生産技術

最先端技術を駆使し、各分野のエキスパートが、国内拠点・海外拠点の設備の設計・製作・施工・メンテナンスを行い、設備の安全かつ安定的な操業の支援をしています。

- ① 設備および建屋の設計・製作・施工・管理
- ② 既存設備の維持管理・メンテナンス
- ③ 顧客先への貴金属回収設備の設置・アフターサービス

### TOPICS テクノセンターに技術関連部門を集約し、試験棟を新設

1998年にテクノセンターを開設し、独自の研究開発と分析技術開発を進めてきました。2009年9月に、神戸本社から製造部・環境安全管理部が、神戸事業所から生産技術部がテクノセンターに移転しました。また、試験棟を新設し研究開発部の実証実験や生産技術部の設備開発・メンテナンスをより効果的に進めています。

今回の集約を機に技術関連各部門の有機的な結合を一層強化し、品質向上と技術革新を推進します。





# 環境保全事業



**廃棄物処理のエキスパートとして、  
持続可能な循環型社会の  
実現に取り組んでいます。**

私たちは、各種廃棄物の無害化・適正処理を行い、地球環境問題の解決に貢献しています。グループ会社が長年それぞれの分野で培ってきた独自技術の提供を通して、お客様の多様なニーズにお応えします。



# 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物に関する トータルソリューションを提案します。

当社グループは産業廃棄物処理業として最大級の営業ネットワークを誇ります。全国に設置したグループ営業拠点を中心に、きめ細かなサービスを実現しています。

## 当社グループの取得ライセンス

- 産業廃棄物収集運搬業許可 47都道府県 62政令市
- 産業廃棄物処分業許可 15都道府県 10政令市
- 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可 47都道府県 62政令市
- 特別管理産業廃棄物処分業許可 12道県 8政令市

(2010年3月31日現在)

## 幅広い分野で高付加価値サービスの提供に努めています。

各分野に特化した処理技術で、多様化・高度化するお客様のニーズに迅速にお応えします。



# 廃棄物のワンストップソリューションの実現を目指しています。

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物のほとんどの品目について収集運搬および中間処分の許可を取得し、適正かつ迅速に処理できる体制づくりをしています。さらに、

産業廃棄物の卓越した無害化処理技術とゼロエミッションの確立を進め、環境分野におけるグループ内ワンストップソリューションの実現を目指しています。



## 特定有害廃酸・廃アルカリ・汚泥処理

工場や事業所から排出される廃酸、廃アルカリや大学・民間企業の実験研究所で不要になった廃試薬は適正処理が必要です。これらの多品種にわたる廃棄物は、徹底した安全管理体制のもと当社グループが長年培ってきた技術を駆使し、各工場専用ラインで無害化処理をしています。特に、廃試薬については回収時に1本ずつビニール袋で梱包し、混触防止を図っています。また、当社グループの分類基準に沿って容器に分別保管し、収集運搬および保管時の異常反応発生防止措置を行っています。試薬瓶のラベルが剥れ、内容物が不明な廃試薬についても当社で分析し、適正処理のサポートを行います。



梱包作業



廃試薬処理設備

## 廃酸・廃アルカリ・汚泥の高速微生物処理

工場や事業所からの廃液については有害物質を取り除いた後、窒素・リンを含む場合でも、独自の技術と微生物処理によって無害化（排出基準値未満まで浄化）し、放流しています。特に、エネルギー消費や二酸化炭素排出量は、他の処理方式との比較で低くなっています。

また、廃液の中和・脱水後の汚泥（銅・鉄・亜鉛等の汚泥）は、金属精錬原料や土地造成資材として有効利用されています。一部リサイクルできない汚泥は、埋立処理をします。



## 主なリサイクル

### ●耐火レンガリサイクル

ガラス製造炉、ごみ焼却炉などの解体および定期修繕工事で発生する廃耐火レンガやバグフィルター式集塵機ろ布交換工事で発生する飛灰は、有害物質（重金属類、ダイオキシン類）を分析後に精緻な分別を行い、耐火レンガや路盤材としての再利用を図るなど高いリサイクル率を意識した処理を行っています。



### ●ガラスリサイクル

ガラスメーカー、サッシメーカー、自治体などから板ガラス、ガラス瓶などを回収しています。回収した板ガラスくず、ガラス瓶などは自社工場で選別破砕後、高品位のガラスカレットとして再生・販売しています。ガラス原料として再利用できないものは、路盤材としてリサイクルしています。ガラスリサイクルを通じて、鉱物資源の枯渇防止や環境負荷低減を図っています。

### ●有機性汚泥のリサイクル

食品製造工場、レストランチェーンなどから排出される食品系有機廃液や汚泥は、中和・脱水を行います。ろ液は微生物処理で無害化（排出基準値未満まで浄化）し、下水放流します。

汚泥は、発酵・熟成プラントで堆肥化することにより農家の方々にリサイクル肥料として有効利用いただいています。

### ●有害廃棄物の洗浄処理

半導体メーカー、電子部品メーカー、研究所などの半導体製造装置・各種研究設備に付着した有害廃棄物を洗浄処理しています。洗浄処理後の装置や設備は素材分別、再資源化することで環境負荷の低減を図っています。